

# 先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013	インターン番号	KB108	タイプ	公募型
派遣国	インドネシア共和国			派遣都市	ジャカルタ
受入機関	Directorate General of Electricity, Ministry of Energy and Mineral Resources (以下、「エネルギー鉱物資源省、電力総局」)				
受入機関概要 (事業内容等)	エネルギー鉱物資源省はインドネシアのエネルギー分野全般を所掌する主要機関であり、その中の電力総局がインドネシアの電力部門の規制・監督、政策策定等を担っています。				
派遣期間	2013年9月18日 ~ 2014年2月28日				
現在の所属先	中国電力株式会社		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	国際事業部門		所在地	広島	
区分	大企業		性別	男性	

## 1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

私が働いている中国電力株式会社は、海外において発電事業(IPP事業)を展開することを目指しており、インドネシアもその候補国の一つです。IPP事業ではその国の政府機関が重要な役割を果たすことになることから、本インターンシップに参加することで人脈を作り電力総局との関係を構築すること、制度や政策に関する現地の生の情報を収集することが大きな目標でした。また、当時英語もほとんど話せなかった私自身の能力向上というのも参加理由の一つです。

## 2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

電力総局に勤務されていたJICA専門家の事務所に受け入れていただきました。日常業務としては、そこで準備を進めていたエネルギー政策関連のワークショップやイベント開催のサポートをさせていただきました。また、現地の職員の方々との協力をいただき、職員の方々による電力政策のレクチャーを受講したり、インドネシアの発電所や研究所を見学させていただいたり、様々な経験をさせていただきました。

## 3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

インターンシップを通じ、電力総局の数多くの職員の方々とは知り合うことができ、今でも気軽に情報交換をできる関係を築くことができました。また、インドネシアの電力開発計画について、進捗状況や課題といった具体的な情報を数多くお聞きすることができたほか、コミュニケーションを通じてインドネシア独特の時間間隔、厳しい上下関係といった異文化の理解も深まりました。

その他、個人的なことではありますが、これまで海外経験がゼロだった私にとって、海外と関わることはこんなに面白いのかと、自身の価値観が変わったきっかけになったのは大変大きな収穫でした。

## インターンシップ風景



職場における普通の会議の様子



エネルギー鉱物資源省の職員による再生可能エネルギーについてのレクチャーの様子

#### 4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

中国電力では海外事業を新たな収益源とするべく、数年前からIPP事業への参画へ向けた取り組みを本格化しています。そのような状況下、私はインターンシップに参加するまでは海外案件を総括・管理する部署で、主に総務的な業務を担当していました。

インターンシップ参加後は、社内でレポートを提出し、何度かインドネシアに関する発表も行ったことから、インドネシアに関して 多少は見識がある担当者 として社内で見てもらえるようになり、IPP事業について実際にプロジェクトを担当する部署に異動となりました。仕事では、インターンシップ中のインドネシアでの経験が買われ、インドネシアにおけるプロジェクトの取りまとめ役として現地に出張することもあります。例えば昨年、インドネシアのある島で水力発電所候補地の調査を実施しました。建設候補地を確認し、水力発電所の建設可否を技術的な側面から確かめることが目的でしたが、首都であるジャカルタから現場までの移動時間は10時間以上。事務系の社員がそのような現場を訪問することはなかなかできません。インドネシアの自然の中で、「ここに水力発電所を自分たちで造れるかもしれない」と自分の肌で感じる事ができたのは、インターンシップがあったからこそできた経験だと思っています。

また、インドネシアに関する報道で不明な点があった場合には、電力総局の知り合いに質問をすることができ、情報のアップデートが可能と判断された私に、帰国後ずっとインドネシアの情報収集の業務も任されています。今ではインドネシアに関係する話があった際には、他の部署からもその情報を提供してもらえるようになりました。先日は情報収集のため、電力総局や関係先に出張し、インドネシアにおける事業可能性について聞き取り調査を実施してきました。残念ながらまだ具体的な投資案件にはつながってはいませんが、インターンシップ中に得た知識により、どのような機関にアプローチする必要があるかが徐々に分かるようになってきたと感じています。訪問時のアポイントメントの取り付け等においても、インターンシップで得たコネクションに助けられています。

他にも、インターンシップ中は電力総局以外でも、インターンの同期生、現地の駐在者等、日本にいては出会えなかったであろう多くの方々と知り合うことができました。こうした方々とは今でも日本やインドネシアでお会いし、インドネシアに進出している日系企業の状況や、海外事業をする上での課題など、業種にとらわれない様々なお話をお聞かせいただいております。

#### 5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

派遣されてよく分かりましたが、母国語として英語を使っていないインドネシアでは、日本にいては入手できない情報が数多くあります。また、派遣先により活動内容は様々かとは思いますが、日本にいては出会えない大勢の方に出会えると思います。インターンシップ中にお会いできた方々から学んだことは、これまでの考え方が変わるほど私には大きなものでした。迷われているようでしたら是非参加されてみてはいかがでしょうか。

#### 現在の活躍の様子



インドネシアにおける水力発電所  
候補地調査の様子